

# ORCID学術機関コンソーシアムに関する 検討資料

2017年9月29日

ORCID学術機関コンソーシアム懇談会（オンライン会議）

# ORCIDとは

---

- 世界中の研究者に永続的かつ一意の識別子（ORCID ID）を付与することにより、円滑な学術情報流通に寄与することを目的とした世界的なイニシャティブ
- 運営母体であるORCID, Inc.は、2010年8月に国際的かつ学際的な非営利団体として発足し、2012年10月よりサービスを開始
- 個人は、無料で16桁のORCID番号の下に、自身の経歴、研究業績などを電子的に管理するためのアカウントを取得することができる
- 大学等の学術機関、学協会、研究資金配分機関、学術出版者などは、機関メンバーとして年会費を支払うことにより、ORCIDの活動を支えるとともに、ORCIDが提供するサービスを利用し、サポートを受けることができる

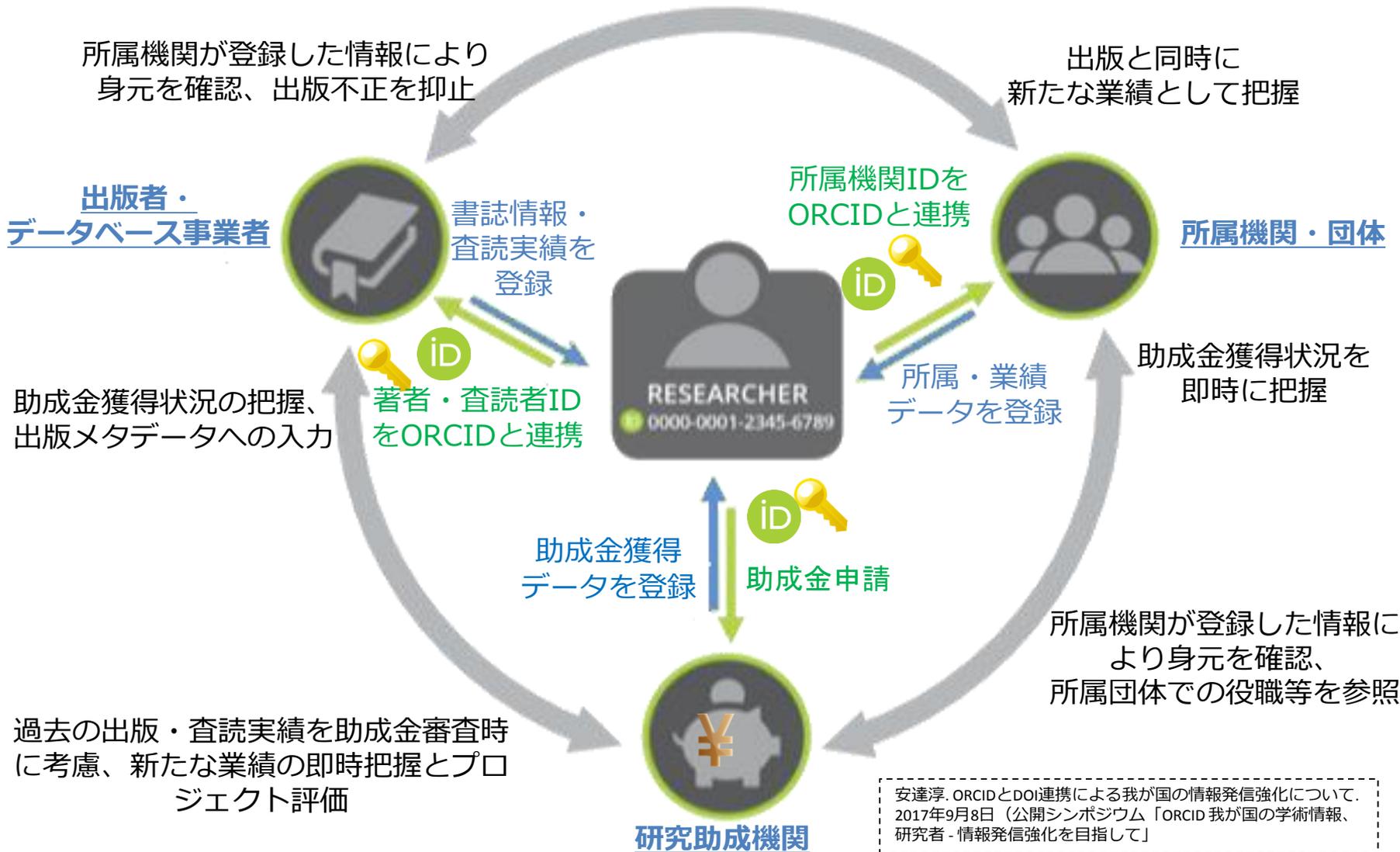
# ORCIDの強み（優越性）

---

「複数のステークホルダーが関与することにより、研究者の業績情報の信頼性を集合的に担保する仕組みを実現している」（国立情報学研究所 安達 淳）

- 大学、出版者、研究費配分機関等が機関メンバーになることにより、研究者の職歴、出版論文、外部資金取得などの情報をORCIDレコードに自動的に書き込み、その情報を研究コミュニティ間で共有
- それによりデータ入力の負担と軽減

# 研究コミュニティ全体での活用により、データ入力負担の軽減と自動アップデートを実現



# ORCIDを取り巻く世界の状況

---

- 380万人以上の研究者がORCIDに登録
- 700以上の機関がメンバーとして参加
- 国や地域レベルの18のコンソーシアムが結成 (Australia, Canada, Belgium, Denmark, Finland, Germany, Italy, Netherlands, New Zealand, South Africa, Taiwan, UK, and US)
- 1,600以上の国際学術ジャーナルが、論文投稿時にORCIDの入力を義務化
- 多くの研究資金配分機関が、研究資金申請時にORCIDの入力を推奨し、10機関では義務化 (Austria、Portugal、Qatar、South Africa、Sweden、UK、US、WHOなど)

# 日本での導入状況

---

- 6万人以上の研究者がORCIDに登録
- 10機関がORCIDメンバーとして参加
  - 学術機関
    - 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 (NII) (2013～) Basic
    - 慶応義塾 (2015～) Premium
    - 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 (NIMS) (2015～) Basic
    - 国立大学法人 東京工業大学 (2016～) Basic
    - 国立大学法人 筑波大学 (2017～) Premium
  - 学協会
    - 日本地球惑星科学連合 (2016～)
    - 日本消化器外科学会 (2016～)
  - その他
    - 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) (2013～)
    - (株) アトラス (2013～)
    - (株) サンメディア (2016～)

# 学協会コンソーシアム設立に向けた動き

---

- UniBio Press（日本動物学会等）を中心に、コンソーシアム設立に向けた動きあり
- ORCID学協会コンソーシアム検討会をこれまでに4回開催
- 技術サポートは民間会社に外注
- 科研費「国際情報発信強化A」の申請を計画中（40学会の5年間の会費及び技術サポート費に充当）
- 9月8日に、公開シンポジウム「ORCID 我が国の学術情報、研究者 - 情報発信強化を目指して」を開催

参照：『ORCID 学協会コンソーシアム設立に向けて』（平成29年9月25日）

# JPCOARの活動

---

- オープンアクセスリポジトリ推進協会（Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR）
  - 機関リポジトリの振興・相互支援を目的とし、大学図書館と国立情報学研究所の間の連携・協力協定に基づき、2016年7月に設立されたコミュニティ
  - 会員機関数：525
- 研究者情報連携タスクフォース
  - メンバー（北大、NIMS、東大、中京大、京大、OIST、NII）
  - 国内外の事例を調査し、ORCID導入を進めながら、コンソーシアム設立を検討

# 日本の現状（まとめ）

---

- 日本のORCID登録者数は大幅に増加しているが、機関メンバーは限定的
- 研究者は機関やコンソーシアムのサポートがなく、ORCIDに登録したもののどうしたらよいかわからない
- ORCIDの強みを活かせていない

# 問題点（リスク）

---

- フリーライダー批判
  - 日本は相応の負担をしていないという批判
    - 日本：登録者=6万、機関メンバー=10（内、学術機関5）
    - 豪　：登録者=6万、機関メンバー=44
- 発言力低下
  - ORCIDの意思決定に対して発言力を持ってない
  - 海外の学術機関や大手出版社による偏った運営
- サポート問題
  - アジア・パシフィックのリージョナルディレクターが中国スタッフのみになるリスク
  - 日本語によるサポートが得られない
- ガラパゴス化
  - 世界の研究情報流通の輪から取り残される



# リスクを避け、メリットを享受するための課題

## ● 経費問題

### ● 会費

- 年会費が高い (Basic: 4,000ドル Premium: 8,000ドル)
- ORCIDのような海外の組織に会費を払うのが制度上困難な大学もあり

### ● システム開発経費

- APIを活用して学内システム (業績DBやリポジトリなど) と連携させるための開発費

## ● 学内組織連携

- どこがイニシャティブをとり、どう連携するか？



## (参考) 機関メンバー会費 (現在)

カテゴリ	区分	年会費
Basic	Standard	US\$5,000 (550,000円)
	Consortium (5 or more entities)	10% discount
	Non-profit organizations	eligible for a 20% discount US\$4,000
	Start-up organizations	eligible for a 75% discount
Premium	Small organizations (<US\$ 200M in annual revenue or grants)	US\$10,000 (1,100,000円)
	Large organizations (>US\$ 200M in annual revenue or grants)	US\$25,000 (2,750,000円)
	Non-profit organizations	eligible for a 20% discount US\$8,000
	Start-up organizations	eligible for a 75% discount
Premium Consortium	5-9 members	US\$6,000 (660,000円)
	10-19 members	US\$5,000 (550,000円)
	20-29 members	US\$4,000 (440,000円)
	30-99 members	US\$135,000 per consortium (14,850,000円)
	100-250 members	US\$200,000 per consortium (22,000,000円)

東工大、NIMS、NII

慶応、筑波大

<https://orcid.org/about/membership>

# コンソーシアムに対する期待

---

- スケールメリットによる会費の低減化
- APIアプリやツールキットなどの共同開発・共同利用
- 知見や経験などの蓄積と共有
- ロビーイング（対ORCID、対関連機関、対文科省などへの働きかけ）

# コンソーシアムのメリット

---

- スケールメリットによる機関当たりの会費の引き下げ（学協会コンソーシアムとの合流）
- 知見、技術、経験などの蓄積と共有により、全体のコストを低減
- APIアプリやツールキットなどの共同開発・共同利用

## (参考) 機関メンバー会費 (2018年～)

カテゴリ	区分	年会費
Basic	Standard	US\$5,150 (570,000円)
	Non-profit organizations (eligible for a 20% discount)	US\$4,120 (450,000円)
Premium	Small organizations (<US\$ 200M in annual revenue or grants)	US\$10,300 (1,100,000円)
	Non-profit organizations (eligible for a 20% discount)	US\$8,240 (900,000円)
	Large organizations (>US\$ 200M in annual revenue or grants)	US\$25,750 (2,750,000円)
	Non-profit organizations (eligible for a 20% discount)	US\$20,600 (2,266,000円)
Premium Consortium	5-9 members	US\$6,000 (660,000円)
	10-19 members	US\$5,000 (550,000円)
	20-34 members	US\$4,000 (440,000円)
	35-60 members	US\$3,500 (385,000円)
	61+ members	US\$3,000 (330,000円)

<https://orcid.org/about/membership>

# 学協会コンソーシアムとの関係

---

## 1. 単一型

- 学術機関と学協会を一体化した国内統一コンソーシアムを設置
  - スケールメリットにより会費単価の引き下げが可能
  - ×目的を異にする2つの団体を一体として運営することが困難

## 2. 分離型

- 学術機関と学協会の2つのコンソーシアムを独立して設置
  - それぞれの目的や課題に応じたコンソーシアムの運営が可能
  - ×スケールメリットが活かさない

## 3. 分離連携型

- 学術機関と学協会を分離したコンソーシアムを設置
- その上に仮想的な国内統一コンソーシアムを設置
  - スケールメリットを活かしつつ、それぞれの団体の目的や課題に応じた運営が可能

# (参考) ORCID国内コンソーシアムの設置形態 (素案)

ORCID

2018.4 設立?  
事務局 (リード機関) : ○○○○  
main: XXXX  
admin: XXXX  
tech: XXXX

2018.1 設立?  
事務局 : ○○○○

2018.4 設立?  
事務局 : UniBio Press 予定  
科研費「国際情報発信強化A」  
の申請を計画中

JPCOAR  
研究者情報  
連携TF

筑波 慶応 東工大 NIMS NII

...

...

# (参考) ロードマップ (素案)

---

- 9月4日
  - 5学術機関メンバーでプレ懇談会
- 10月初旬までに
  - 5機関の代表を発起人として「コンソーシアム設立趣意書」を作成
- 10月中旬から
  - 「設立趣意書」を全国に配布し、コンソーシアムへの参加を募る
- 11月末
  - 5機関+α（参加意思表明機関）で設立準備委員会を立ち上げ
- 12月から
  - 設立準備委員会にて諸規則等の整備
- 2018年1月か2月
  - 設立総会を開催し、コンソーシアム設立をめざす

\* 学協会コンソーシアムが立ち上がるようであれば、設立総会で承認を受けた運営委員会にて仮想ジャパンコンソーシアムについて検討

- 2018年4月から
  - 会費徴収、コンソーシアム活動開始